

## 5 アンケートの分析

### (1) 成果と課題について

【●成果（メリット） ▲課題（デメリット） ◆継続・見直し】

- 「市民のニーズに答えている」については、保護者の肯定的な意見が多く、特に就学前の保護者の評価は高い。

(単位：%)

	そう思う+どちらか と言えばそう思う	どちらかと言えばそう思 わない+そう思わない	どちらとも 言えない	無回答	合計
小6中3の 保護者	57.7	5.8	32.9	3.6	100
就学前の 保護者	65.2	5.1	28.2	1.5	100
町内会	38.4	16.1	30.8	14.7	100

- 「特色ある学校づくりが進んでいる」については、全区分で肯定的な意見が多かった。

(単位：%)

	そう思う+どちらか と言えばそう思う	どちらかと言えばそう思 わない+そう思わない	どちらとも 言えない	無回答	合計
小6中3の 保護者	54.6	7.0	34.4	4.0	100
就学前の 保護者	48.8	8.0	41.0	2.2	100
町内会	36.1	15.0	33.8	15.1	100

- 「保護者の学校への協力意識が高まる」については、小6中3の保護者では「そう思う・どちらかと言えばそう思う」と、「どちらとも言えない」の意見が半々だった。

(単位：%)

	そう思う+どちらか と言えばそう思う	どちらかと言えばそう思 わない+そう思わない	どちらとも 言えない	無回答	合計
小6中3の 保護者	42.6	10.9	42.3	4.2	100.0
就学前の 保護者	36.7	12.8	48.3	2.2	100.0
町内会	30.0	21.2	33.1	15.7	100.0

- 自由記述では、家庭や児童生徒の抱えている諸事情から選択制度があるから助かったという意見や選択した学校にたいへん満足しているという意見も多かった。

- ▲「学校間で格差が生じる原因になっている」については生じていると答えた人が多い。  
(単位：%)

	そう思う+どちらか と言えばそう思う	どちらかと言えばそう思 わない+そう思わない	どちらとも 言えない	無回答	合計
小6中3の 保護者	48.4	10.2	37.1	4.3	100.0
就学前の 保護者	44.0	9.4	44.2	2.4	100.0
町内会	47.7	8.8	29.2	14.3	100.0

- ▲「学校によって受入枠に差があるのは良くない」については、どちらとも言えないとの  
意見が多く、肯定とも否定とも言えない結果である。

(単位：%)

	そう思う+どちらか と言えばそう思う	どちらかと言えばそう思 わない+そう思わない	どちらとも 言えない	無回答	合計
小6中3の 保護者	34.0	20.3	42.0	3.7	100.0
就学前の 保護者	26.6	29.5	42.4	1.5	100.0

- ▲「住んでいる地域とのつながりが希薄になる」については、「希薄になる」と答えている  
人が多い。

(単位：%)

	そう思う+どちらか と言えばそう思う	どちらかと言えばそう思 わない+そう思わない	どちらとも 言えない	無回答	合計
小6中3の 保護者	51.2	10.8	34.0	4.0	100.0
就学前の 保護者	45.0	9.7	43.7	1.6	100.0
町内会	45.0	9.6	30.0	15.4	100.0

特に町内会では、地域の少子化の原因が学校選択制度にあると考えている人が多い。  
(約27%)

- ◆「制度は今後も継続すべきである」については、町内会は「どちらとも言えない」が最  
も多かったが、保護者は概ね肯定的な意見が多かった。

(単位：%)

	そう思う+どちらか と言えばそう思う	どちらかと言えばそう思 わない+そう思わない	どちらとも 言えない	無回答	合計
小6中3の 保護者	55.9	8.3	31.9	3.9	100.0
就学前の 保護者	59.6	4.8	34.3	1.3	100.0
町内会	31.9	17.4	34.6	16.1	100.0

- ◆「制度の見直しが必要である」については、全区分で「どちらとも言えない」が多く、「そう思う・どちらかと言えば見直した方がよい」と答えた人はその次に多かった。

(単位：%)

	そう思う+どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない+そう思わない	どちらとも言えない	無回答	合計
小6中3の保護者	26.9	16.2	52.5	4.4	100.0
就学前の保護者	22.6	18.2	57.4	1.8	100.0
町内会	32.7	15.0	38.1	14.2	100.0

## (2) 学校選択利用者・非利用者別のクロス集計の分析（抜粋）

### 【小中学校保護者】 学校選択制度利用者・非利用者

- 通学方法  
非利用者は徒歩が多く、利用者は電車、船、自家用車が多い。
- 通学時間  
利用者の方が長いと思っている傾向だが、明確な差ではない。
- 通学について困った事や心配なこと  
利用者の方が、バス・電車の便が不便、通学費用、都合で送迎できないときに困った、駐停車に関する苦情を言われた、災害時の登下校（小のみ）について該当が多い。
- 学校の教育目標やその達成に向けた取組について、共感できていますか  
利用者の方が共感できている（中のみ）。
- 学校に期待する教育や指導について  
回答に差のある項目はない。若干、利用者の方が学校は期待に答えてくれていると思っている（小のみ）。
- 学校の取り組みなどについて  
小学校で情報提供が役立つ、学力の状況について説明してくれる、保護者や地域の要望に適切に対応してくれるとの回答が少し利用者に多い。中学校は差がない。ただし、小中とも利用者の方が現在通っている学校に満足している。
- 家族の状況について  
利用との関連はない。
- 次のことにあなたはどの程度あてはまりますか  
学校行事、PTAや保護者会、地域の行事、子育てや教育について友人・知人に相談のいずれも差はない。
- (学校選択制度利用者のみ) 地元の学校への通学方法  
小学校は徒歩で10～30分、中学校は徒歩、自転車、自家用車で20～30分。

- (学校選択制度利用者のみ) 学校選択制度を利用することにした理由  
学校の授業が充実していると思ったが最多。次いで、学校の様子が楽しそうだった。他、(小)は兄弟が通っているから、放課後の帰宅先があるから、通学に便利だから、仲の良い友だちが通うからが20%を超える。(中)は仲の良い友だちが通うから、放課後の帰宅先があるからが20%を超え、通学に便利だから、お子さんの強い希望だから、兄弟が通っているから、部活動など特色ある活動があるから、環境を変えたかったからが14%を超える。
- (学校選択制度利用者のみ) 学校を決めるときに、参考としたもの  
(小)は学校の見学と選択した学校に通っている人の話が40%程で多い。(中)は選択した学校に通っている人の話が40%で、家族の話、学校の見学、その他が20%を超える。
- (学校選択制度利用者のみ) 学校のある地域の行事への参加  
よく参加する+時々参加するで、(小)は85.5%だが、(中)は54.5%に減る。
- 学校選択制度への意見  
以下項目で利用者の方が肯定率が高い。市民のニーズに応えている(中)、子どもの健やかな成長に寄与する(中)、特色ある学校づくりが進んでいる(小中)、保護者の学校への協力意識が高まる(小中)、学校間で格差が生じる原因になっている(中)、受入枠をなくし希望者全員が入学できるようにしたほうが良い(中)、制度は今後も継続すべきである(小中)。

#### 【小中学校児童生徒】 学校選択制度利用者・非利用者

- 通学方法  
非利用者は徒歩が多い。
- 登下校のときに困ったことやいやな思いをしたこと  
バス・電車の便が不便、バス・電車など乗り物が遅れる(利用者小中)、雨の日の通学(非利用者小)、マナーを注意される(利用者小)。
- 通学している学校について  
「学校の勉強は得意だ」のみ、(小)の非利用者が肯定的。
- 放課後は、何をして過ごしていますか。  
放課後子ども教室や放課後児童クラブ(学童保育)に参加している(小のみ)で利用者が多い。学習塾など学校や家以外の場所で勉強している(小)で利用者が多い。
- 土曜日や日曜日は、何をして過ごしていますか。  
地域の活動に参加している(中)で利用者が多い。若干、非利用者が参加している。学習塾など学校や家以外の場所で勉強している(小中)で利用者が多い。
- 次のことは、あなたにどれくらいあてはまりますか。  
住んでいる地域でボランティア活動をしている(中)で、若干非利用者が肯定

的。住んでいる地域の人にあいさつをしているでは、(小)は利用者、(中)は非利用者が肯定的。

- 学校選択制度を利用することにした理由は何ですか。  
小中でやや傾向が違う。家族や通学の都合を除けば、(小)は学校が理由になっている、(中)は友人が理由になっている。  
(小)では、兄弟が通っているから、学校の様子が楽しそうだったから、学校の授業が充実していると思ったから、仲の良い友だちが通うから、が20%を超えている。  
(中)では、仲の良い友だち が通うから、家族のすすめがあったから、環境を変えたかった(友人関係など)から、学校の授業が充実していると思ったから、が20%を超えている。
- 学校を決めるときに、参考としたものは何ですか。  
小中でやや傾向が違うが、学校の見学、選択した学校に通っている人の話、家族の話、特にない・分からないが約20%を超える。
- 次のことは、あなたにどれくらいあてはまりますか。  
学校がある地域の行事に参加している、学校がある地域でボランティア活動をしている、学校がある地域の人にあいさつをしている、で中学生になると肯定率が下がる。

**【新入学児童保護者】 学校選択制度利用検討者(利用する又は検討中)・非利用者**

- 家族について  
保育所(園)、幼稚園、認定こども園で大きな差はない。  
子ども数が少ない方がやや利用を検討している。  
祖父母と同居している方が利用しない。  
父母の就労状況での違いはない。
- 通学方法  
スクールバスは非利用者が多く、その他、分からないは利用検討者が多い。利用検討者の方が通学が長いと思っている。
- 学校選択制度は非利用者でも91%が知っている。
- 利用しない理由  
住んでいる地域にある学校へ就学するのがよいから、両親や兄弟姉妹が通学する(した)学校だから、仲の良い友だちが入学するからの順で多く、30%を超える。
- 通学について(学校選択制度の利用検討者のみ)  
通学方法は徒歩50.8%、自家用車36.5%、バス19.0%、電車9.5%。  
通学は少し長いと思う人が半数。
- 「学校選択制度」の利用を検討することにした理由(学校選択制度の利用検討者のみ)

通学区域内に通っている保育園や幼稚園があるから（友だちの多くが入学する）、  
兄弟が通っているから、学校の授業が充実していると思ったから、特色ある教育  
活動を推進している学校だから、地元の学校に通学させることに不安があるから、  
放課後の帰宅先があるから（例：祖父母宅等）の順で多く、20%を超える。

- 小学校（学校選択の利用を検討中の場合は選択希望校）に入学するにあたり、教育全般で心配なことがありますか。  
差のある項目はない。
- 学校に期待する教育や指導について  
ほとんど差はない。外国語を用いてコミュニケーションを図ることができる力を身に付けるのみ、やや利用検討者が肯定的。
- 次のことにあなたはどの程度あてはまりますか  
住んでいる地域の行事への参加のみ、やや非利用者が参加している。
- 学校選択制度への意見  
利用検討者の方が肯定率が高い。受入枠の設定は、学級編制や施設の都合上、やむを得ないについては差がなく60%程度が肯定的回答をしている。